

ふやそうとして、易者をたずね、「私の家には、先生もごしよ知のように、朝から晩まで来客が多くこまっております。なんとか客のこなくなる方法はないものでしょうか。」と、占ってもらい、「おうぎおどりをする者を、弓でうちとれば客はこなくなるであろう。」と、答をもらいました。

ある朝、太郎蔵が目をさまし、東の方の野原をながめると、朝日をせなかいっぱいにうけ、おうぎを持ちおどっている人がみえました。太郎蔵は、これこそ易者のいたおうぎおどりをする者にちがいないと、さつそく弓を持ってくると、「ビュー」と矢をはなちました。しかし、矢は当たったは

